

## 令和4年度元気なコミュニティ特選団体の概要

番号	市町村名	団体名	活動の概要
1	盛岡市	青山地区まちづくり協議会	<p>・当協議会は、地域協働のまちづくりを進める団体として、平成23年11月に発足し、「人のわでみんな元気なまち青山」をスローガンに据え、平成24年3月23日に『青山地区まちづくり計画』を策定。協議会は、地域住民や地域の各種団体が相互に連携し、青山地区が活力に満ちた地域を目指すことを目的としており、地域内の町内会・自治会、商店会、施設、市民団体、事業者、消防団、PTAなど多様な主体で構成されている。</p> <p>・活動のテーマは、「①盛岡ーあいさつのすてきなまち青山」、「②盛岡ー住みやすいまち青山」、「③盛岡ー安心して生活できるまち青山」、「④盛岡ーにぎわいのあるまち青山」の4つ。このテーマに基づき、年間を通して各種事業を開催し、情報の発信を行っている。</p>
2	滝沢市	小岩井自治会	<p>・小岩井自治会は、昭和41年に、小岩井地区の自治組織の強化を願い、地域内にあったいろいろな団体を自主的に統合・組織化した部落自治会を原点とし、地域の振興・発展のために継続して地域活動を行っている団体。</p> <p>近年においては、生活の安心と幸せを実現するため「安全、安心、つながり」を活動のテーマとし、「安全と安心を守る活動」、「生活の便宜を図る活動」、「福利厚生を図る活動」、「相互扶助を図る活動」の4項を柱とした事業を積極的にやっている。</p> <p>今般、新型コロナウイルス感染症が日々の暮らしに大きな影響を及ぼしている中においても、様々な感染防止対策を講じながら、地域の住民が助け合い、支えあう地域づくり活動を継続して行っている。</p>
3	遠野市	遠野町まちづくり協議会	<p>・昭和56年に前身の遠野町地域づくり連絡協議会として設立（令和2年11月から名称を「遠野町まちづくり協議会」へ変更）。遠野町内15行政区及び関係団体の代表者で構成し、主に会費、補助金等を活用しながら自主的な事業及び関係団体の連絡調整を図りながら地域づくりを進めてきた。</p> <p>市内で最も世帯数が多い地域（市街地）の団体として、各種イベントにおいて市の事業との連携、協力による活性化事業への取組みに加え、高齢者対象の生涯学習講座である「鍋城大学」の継続的な実施など、特徴的な独自の取組みも行っており、現在は、地域運営組織として組織体制を整備し、人口減少、少子高齢化社会における地域づくりの中心として活動している。</p>
4	奥州市	栃の木自治会	<p>・自治会規約第3条に規定している「協働のまちづくり」・「自治会の振興」・「会員相互の親睦及び連絡調整」・「環境整備、防災、防火、交通安全」・「社会体育活動、青少年健全育成」・「集会施設」等の各事業を着実に展開している。</p> <p>具体的には、自治会独自の広報「栃の木」の発行、「地域づくり研修会」の開催、「満倉農村公園」の環境整備活動、側溝清掃（泥上げ）、「防災研修会」の開催、「交通安全教室」を地元老人クラブとの共催で開催、子供会育成会が中心となった「栃の木子供大黒舞」の継承等を実施している。</p>
5	西和賀町	若畑里づくり委員会	<p>・少子高齢化や主産業である農業の衰退などで地域全体の活力が失われ、地域の祭やアケビ蔓細工など伝統ある行事や技術の継承が進まず、また地域内に多く点在する史跡・名勝が荒廃し歴史的遺産も消滅の危機にある。地域の歴史を後世に伝え、地域住民による多様な活動で地域活力を創出する方策として策定した「若畑里づくり計画」に基づき自主的な地域づくり活動を実践している。</p> <p>・特に、川舟断層（明治29年陸羽地震）を教訓とした大規模災害への地域防災に取り組み、防災活動を若い世代へ引き継ぐことに力を入れた活動を展開している。</p>
6	金ヶ崎町	東町自治会	<p>・東町自治会は以前から農業を中心としていた東町講中と昭和40年代に整備された東町団地で構成する東町互助会の二つの地縁組織が合併してできた自治会である。</p> <p>・生活習慣や価値観などが異なる二つの地域が、双方の話し合いや共通の交流事業等を通じて一体感を醸成していった。</p> <p>・近年、特に団地内の高齢化が進み一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯が増加し、そのことを地域全体の課題ととらえる方が増えており、令和2年1月に自治会有志16名で結成される「東町除雪ボランティア隊」を結成し、主に一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯宅の除排雪に取り組んでいる。</p>
7	宮古市	銚ヶ崎元気市の会	<p>・港町宮古の象徴である銚ヶ崎地区に新たな賑わいの創出、交流人口の増加などを目的に、令和2年11月に地区住民、事業者らが主体となり「銚ヶ崎元気市の会」が組織され、同月、定期的な賑わいづくりを目指して、地区内の路上や空き区画を利用した青空市形式の第1回「銚ヶ崎元気市」が開催され、令和4年9月までに計13回を開催。</p> <p>・宮古市を代表する定期市として定着し、県内外から来場者があるほか、観光拠点「浄土ヶ浜」への通過地点として、景観づくりにも貢献している。</p>
8	陸前高田市	横田町交通研究会	<p>・横田町は、市中心部から離れた北側に位置しており、路線バスの停留所から遠い沢沿いに建てられた住宅が多いことから、運転免許を持たない高齢者（免許を所有していても、自分で運転し中心市街地まで行くことが困難な者）は、買い物や通院などで不便を強いられるという課題があり、この課題解決のため住民有志が主体となり、令和2年から実証実験を行い、令和3年4月から本格運行を開始した。</p> <p>・毎週火曜日の午前中にレンタカーを使用して横田町内の運転免許を持たない高齢者を、住宅近くのごみステーションから市中心部の商業施設や医療機関、金融機関等に無償で移送する事業に取り組んでいる。</p>
9	大槌町	吉里吉里結和会	<p>・東日本大震災津波の影響により甚大な被害を受けた吉里吉里地区において、震災前にあった「吉里吉里二丁目町内会」と「吉里吉里三丁目町内会」を再編し、平成30年に「吉里吉里結和会」を設立。</p> <p>震災前と異なる住民構成となったことにより、新たな交流の促進や地域コミュニティの活性化が必要となる中、以下の部会を立ち上げ、積極的に地域活動に取り組んでいる。</p> <p>(1) 環境衛生部：地域の美化及び衛生に関する活動の企画実施  (2) 文化体育部：文化活動の推進及び体力増進に伴う活動の企画実施  (3) 青少年育成部：青少年の健全な育成に伴う活動の企画実施  (4) 防災事業部：世代を超えた交流及び自主防災活動の企画実施</p>
10	山田町	田の浜自治会	<p>・田の浜自治会では、地区内の親睦と連携意識の高揚を図ることや、快適な環境づくりに必要な事業を行なうことにより、主体的な住民自治を確立し、明るく豊かな住みよい地域づくりを推進するため、様々な活動を行っている。</p> <p>具体的には、船越小学校 教育活動への協力、町道環境美化衛生の活動、子供会との交流、各種イベントへの協力、地区住民との交流会（世代間交流）、水道点検作業及び各種団体との協調・協力等を実施している。</p> <p>この中で、田の浜八幡宮五年祭（各種イベントへの協力）を紹介する。</p> <p>【田の浜八幡宮五年祭】  五年祭と称して4年毎に開催している。昔は船主の皆さんが総代として祭典を企画運営していたが、不漁が続いたので中断していた。しかし、28年ぶりに平成10年に自治会の中に奉賛会を立ち上げて復活。復活当初は約500世帯を4地区に分け、各地区毎に、山車と子ども達も参加した踊り隊が参加し、祭りに参加できない人々も、昼食や夕食の準備を行うなど、祭りがコミュニティ育成の一助になっていた。その後、2011年の大震災で中止となり、2015年、鎮魂祭と称して再再復活、世帯数が減少したため、踊り隊一つの祭りとなったが婦人会が中心となり、子ども達も参加して実施した。</p>
11	洋野町	大谷地区会	<p>・大谷地区会は、大正6年頃に地区住民の福祉向上のため、各種事業の推進体制の強化を図り、町政を地区行政に反映し、もって地区の健全な発展に寄与することを目的として発足した。以来、人口100人程度の地区であるが地域が一体となり、町主催の体育祭等への参加や地域内の環境整備、高齢者等生活弱者宅の除雪による安全確保に努めている。</p>
12	一戸町	来田七つ物踊り保存会	<p>・来田七つ物踊り保存会は、一戸まつりや弁財天まつり（地区の祭り）など、年に2～3回程度、各種催事に参加し、来田七つ物踊りを披露している。また、各種催事に向けて、踊りや囃子の練習だけでなく、道具作り等も行っている。</p> <p>現在は、小学生から高校生までが踊り手として参加し、20代～80代までが囃子手などとして活動しており、特に地域の小中学生を含む三世代が共同で取り組む形は、地域の活性化等に大きく寄与しており、古くからの農村の望ましい姿を今に残している。</p>